

H. 27
(2015年)

二月 (今月の掲示板)

真宗大谷派・願成寺

人間は、自分のことが自分で一番解らない
昔、『自分探し』の言葉が流行しました。知っているよう
で知らないのが自分のことです。生まれてからズーッ
と『思い通りにしたい』との『自我』の考えで生きて来ま
した。自分の都合に合わせて外側を変えていくのではなく、
『私の考えが正しいかどうかを問う』のが仏教です。例
えば、『生老病死の四苦は、私の考え方が原因』と目覚め
て、苦悩を乗り越えるのが仏教です。が、人間は、鏡が無
いと自分の眼で自分の顔も見えないように、『自分のこ
とが自分で一番解らず、自己中心の私だと目覚めるこ
とは非常に難しい』と、お釈迦様(釈尊)は説かれました。
歎異抄・第2章の『ただ念仏して(阿)弥陀(仏)に助け
られまいらすべし』は親鸞聖人の言葉で、『仏(釈尊)説
無量寿経』の本願の教えです。自分のことが自分で解ら
ない人間に、仏様の方から教え・助けて下さるのです。
全ての人間を『嫌わず・見捨てず必ず救う』の本願に目
覚めると、今の生活の場が(極楽)浄土になるのです。

主な参考資料

- (1) 延塚知道(著)『今、いのちがあなたを生きて入る』、東本願寺・伝導ボックス56、p. 41〜53(2006年)。
- (2) 東本願寺「真宗会館」の情報誌、プラ・ティ2014 No. 11、p. 4「ここに耳を傾ける」(2014年7月号)。
- (3) 狐野秀存(著)『往生浄土の道』、東本願寺・伝導ボックス70、p. 1〜5(2011年)。